

特別史跡
さいとばる
西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書(Ⅷ)



平成15年3月

宮崎県教育委員会

序

西都原古墳群は、全国有数の巨大古墳群として、昭和27年に国の特別史跡に指定されました。さらに、昭和40年代には「風土記の丘」整備事業第1号として史跡整備の先鞭を付け、以来自然景観と田園景観に調和した秀麗な古墳群として高い評価を受けてきました。

さて、宮崎県教育委員会では、平成7年度より、大阪池上曾根遺跡とともに文化庁の「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」の助成を受け、新たな整備事業に着手することにいたしました。「風土記の丘」整備事業から4半世紀あまりの時間を経て、再び全国に先駆けて整備事業に着手できましたことは、地元の皆様をはじめ関係者の熱意の賜物であるとともに、古代史の謎を秘める西都原古墳群の存在が全国的に注目を集めている証拠と言えます。

本年度は、169号墳や111号墳等の発掘調査を行い、新たな情報を含めて今後の整備データを得ることができました。整備では、100号墳保存処理工事と西都原古墳群遺構保存覆屋内部環境改善工事、4号地下式横穴墓保存見学施設建設工事等を行いました。

これまでに行った整備や、今後実施する調査・整備によって新たな姿に生まれ変わった西都原古墳群が学校教育や生涯教育の場として活用されるとともに、遺跡や文化財に対する認識や理解の一助となることを期待いたします。また、本事業を推進するにあたり、深い御理解・御協力を賜った地元住民の方々をはじめ指導委員会の先生方、関係者の皆様に対して衷心よりお礼申し上げます。

平成15年3月

宮崎県教育委員会

例　　言

- 本書は、文化庁の補助を受け、平成7年度から実施している「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」の平成14年度の概要報告書である。
- 調査及び保存整備にあたっては、西都市教育委員会および西都原古墳群保存整備指導委員会の委員や特別調査員の先生方等、多数の方々に御指導、御協力いただいた。
- 調査で出土した遺物は、宮崎県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査及び整備の経緯	1
1 調査及び整備に至る経緯	
2 整備事業の概要	
第Ⅱ章 西都原169号墳の調査	3
第Ⅲ章 西都原東地区調査	6
第Ⅳ章 西都原寺原第2支群の調査	12
第Ⅴ章 西都原111号墳の調査	15
第VI章 保存整備	17
1 100号墳保存処理工事	
2 西都原古墳群遺構保存復元内部環境改善工事	
3 4号地下式横穴墓保存見学施設建設工事	
4 中央監視設備工事	

挿図目次

第1図 整備及び調査位置	2
第2図 馬葬土壤実測図	7
第3図 西都原東地区トレンチ配置図	8
第4図 寺原第2支群	14

図版目次

図版1 西都原169号墳全景	4
西都原169号墳垂直写真	4
図版2 西都原169号墳葺石検出状況①	5
西都原169号墳葺石検出状況②	5
図版3 西都原168号墳	9
馬葬土壤検出状況	9
図版4 馬葬土壤完掘状況	10
轟出土状況	10
図版5 消滅円墳 周溝内須恵器出土状況①	11
消滅円墳 周溝内須恵器出土状況②	11
図版6 西都原111号墳 肪石検出状況	16
西都原4号地下式横穴墓 堅墳	16

第Ⅰ章 調査及び整備の経緯

1. 調査及び整備に至る経緯

4世紀～7世紀前半にかけて造られた西都原古墳群（西都市大字三宅）は、一つ瀬川右岸の標高約60mの洪積台地に位置する。古墳群の構成は前方後円墳32基、円墳279基、方墳1基、地下式横穴墓10基、横穴墓12基、九州最大規模の男狹穂塚・女狹穂塚を有することから、本古墳群は、この地方の古墳時代の核となっていたであろうし、前方後円墳・鏡・埴輪・甲冑・横穴式石室など、ヤマト政権との緊密な政治関係が窺える一方で、地下式横穴墓という在地的な面も持ち合わせている。

我が国最初の合同学術調査が、大正元年～6年に行われ、30基の古墳が調査され、「西都原古墳群」は日本考古学史に残るものとなった。大正年間の調査の評価は、総合的な観点ではなく、断片的な調査に終始した感があるが、その後の西都原古墳群に対する保存意識に多大な影響を与えており、昭和9年の国指定史跡、昭和27年の特別史跡指定、昭和43年には全国初の『風土記の丘』に指定され、古墳と自然が調和した史跡公園として現在に至っている。『風土記の丘』整備では、3つのゾーニングを行い、「森の中の古墳群」、「草原の古墳群」、「古墳間での散歩」といったイメージで整備を行った。また、電柱等は地下埋設を行い、資料館も半地下式とするなど、景観に配慮したものであった。

『風土記の丘』整備から30年近くが経過し、樹木による古墳への影響、あるいは、崩壊、陥没などが見られるようになり、また開発事業における発掘調査などで新たに発見された遺跡等もあり、一度西都原古墳群を再整理し、保存から活用へと、今求められている整備計画に着手することになった。

整備計画は、平成5年度に県教育委員会で「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設け、平成7年3月に『西都原古墳群保存整備活用に関する基本計画』をまとめ、平成7年度から5カ年計画による「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」により整備事業をスタートした。

2. 整備事業の概要

平成14年度は、111号墳及び4号地下式横穴墓の調査を実施した。その結果、4号地下式横穴墓は、111号墳が築造された後に作られたことが確認された。

整備工事は、昨年度に引き続き第3古墳群に園路を新設し、景観を損ねる樹木の撤去を行った。

墳丘の整備工事としては、100号墳の保存処理及び周辺に植栽や園路、説明板を設置した。100号墳は、葺石が良好な状態で確認されたため、発掘調査時の状態で葺石面を見学できるように昨年度から整備工事を実施しており、昨年度は、墳丘の保存処理のみ行った。

4号地下式横穴墓に保存見学施設を建設した。4号地下式横穴墓は、111号墳の地下に造られており、昭和31年に発見された南九州に独特の古墳である。羨道から玄室の一部にかけて天井部が崩落しているため、保存施設の建設が重要となっていた。保存施設は、地下の造構部分を密閉し、カメラにより見学できるものとした。造構部分については保存処理を行った。

酒元ノ上横穴墓群に設置した西都原古墳群造構保存覆屋は、昨年に引き続き内部環境改善工事を実施した。今年度は、周辺の整備工事も同時に実施した。



第1図 整備及び調査位置図 ($S = 1 : 6,000$)

第Ⅱ章 西都原169号墳の調査

立地

西都原169号墳は、西都市大字三宅字丸山に存在する。西都原台地上の西側、男狹穂塚の西約200mに位置し、標高は現状で約80mを測る。周辺には男狹穂塚、女狹穂塚の巨大古墳をはじめ、170号墳や171号墳など両墳の陪冢と考えられる古墳が分布する。169号墳は位置関係から、男狹穂塚の陪冢であると考えられている。

調査の概要

西都原169号墳は、大正元（1913）年に増田于信（宮内省）、関保之助（東京帝室博物館）らによって調査が行われており、墳丘上では形象埴輪、円筒埴輪列、埋葬主体部からは櫛、鏡などが出土したと報告されてる。

現在、「歴史ロマン再生事業」に伴い、平成10年度より調査を行っており、今年度までで、墳丘部の調査が終了した。

墳丘

調査の結果、3段築成の円墳である確認できた。

墳丘斜面には全面に葺石が施されていたとおもわれるが、根石や区画石などの大型の礎以外は遺存状況は悪い。中段のテラスには円筒埴輪列が確認できている。

出土遺物

大正時代に行われた発掘調査により、墳丘テラス上に円筒埴輪列や形象埴輪が、埋葬施設から剣、鉄鎌、鏡、銅鏡などが出土している。

平成10年度からの調査では、今まで、器材埴輪、壺形埴輪、円筒埴輪多数が出土している。

築造時期

築造時期は、出土した埴輪が川西Ⅲ期のものであることから、5世紀の前半代であると考えられる。

小結

本墳は、男狹穂塚の陪冢と考えられ、今後の整理で男狹穂塚・女狹穂塚の評価に関連する成果がさらに得られることが期待できる。

参考文献

関保之助「第百十号墳」「宮崎県西都原古墳群調査報告書」（復刻版）1983

川西宏幸「円筒埴輪総論」「古墳時代政治史序説」1988

松林豊樹「169号墳の調査」「特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書」1999



西都原169号墳全景



西都原169号墳垂直写真



西都原169号墳葺石検出状況①



西都原169号墳葺石検出状況②

第Ⅲ章 西都原東地区の調査

立地

西都原東地区は、西都市大字三宅字西都原東に存在する。西都原台地上の北側、第3古墳群と男狹穂・女狹穂塚に挟まれ、標高は約60mである。

調査地には、国指定167号墳および168号墳がある。

調査の概要

調査は平成14年1月から開始した。今回の調査は、主に167号墳及び168号墳の周溝の確認を主眼とし、両墳の周辺に1m幅のトレンチを13本設けて行った。

167号墳

調査は、墳丘の周辺に4本のトレンチを設け行った。

今回の調査では、周溝等の施設は検出できていない。

168号墳

墳丘周辺に5本のトレンチを設け調査を行った。

調査の結果、幅1.2m、検出面よりの深さ0.3mの周溝が確認できた。

墳丘の径は約12mである。

消滅円墳

167号墳と168号墳の間で削平された円墳が検出された。

幅約1.2m、検出面からの深さ0.8mの周溝が巡り、径は約12mである。

周溝内からは、須恵器の壺、蓋環が出土した。

馬葬土壙

馬葬土壙は、167号墳の西側約10mで検出された。

平面形は隅丸方形で縦1.7m、幅1.4m、検出面からの深さ0.9mをはかる。

土壙内からは、轡が1点出土している。

出土遺物

出土遺物は、消滅墳の周溝から須恵器（蓋環・壺）、および馬葬土壙から轡が出土している。

築造時期

今回の調査では167号墳及び、168号墳に確実に伴う出土遺物は確認できていない。消滅墳の周溝から出土した須恵器蓋環は、隼上り段階に併行していると思われる。

これらの須恵器は、周溝底面から約30cm浮いた状態で出土しており、消滅墳の築造時期は7世紀前半以前と考えてよいだろう。

小結

西都原東地区の古墳の造墓時期

今回の調査では、167号墳と168号墳および消滅円墳の前後関係を捉えることはできなかった。

消滅円墳の周溝内より出土した須恵器が、隼上り段階に併行すると考えられることから、この3墳は7世紀前半の前後に築造されたことが予想できる。

宮崎県平野部の他の群集墳、横穴墓群などをみると、おおよそTK43型式併行期からMT85型式併行期にかけて形成が開始され、隼上りⅡ段階には、新たな造墓は行われなくなる（藤本1998・2000）。

西都原東地区の古墳を、第3古墳群と一部であるととらえるならば、その最終期の造墓であると考えられる。

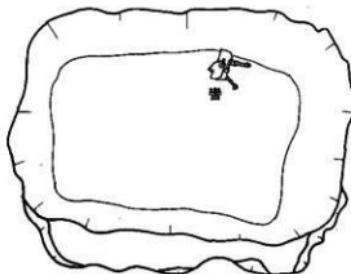
馬葬土壙について

近年、宮崎県下では馬葬土壙の検出が相次いでいる。

現在までに、宮崎平野で検出されている馬葬土壙は、宮崎平野部での検出例は全て群集墳に近接している。

推古天皇が蘇我馬子に「馬ならば日向の駒」と返歌した¹⁾ことが「日本書紀」に記載されているのは有名な話である。少なくとも群集墳の形成が終息に向かう7世紀の前半代には、日向は馬産地としての地位を確立していたと思われ、それ以前から馬匹生産が盛んであったことは想像に難くない。

馬葬土壙を即、馬匹生産へ結びつけるのは短絡にすぎるかもしれないが、日向において馬匹生産と群集墳の形成が密接な関わりをもつ可能性は否めないだろう。



第2図 馬葬土壙実測図 (S = 1:25)

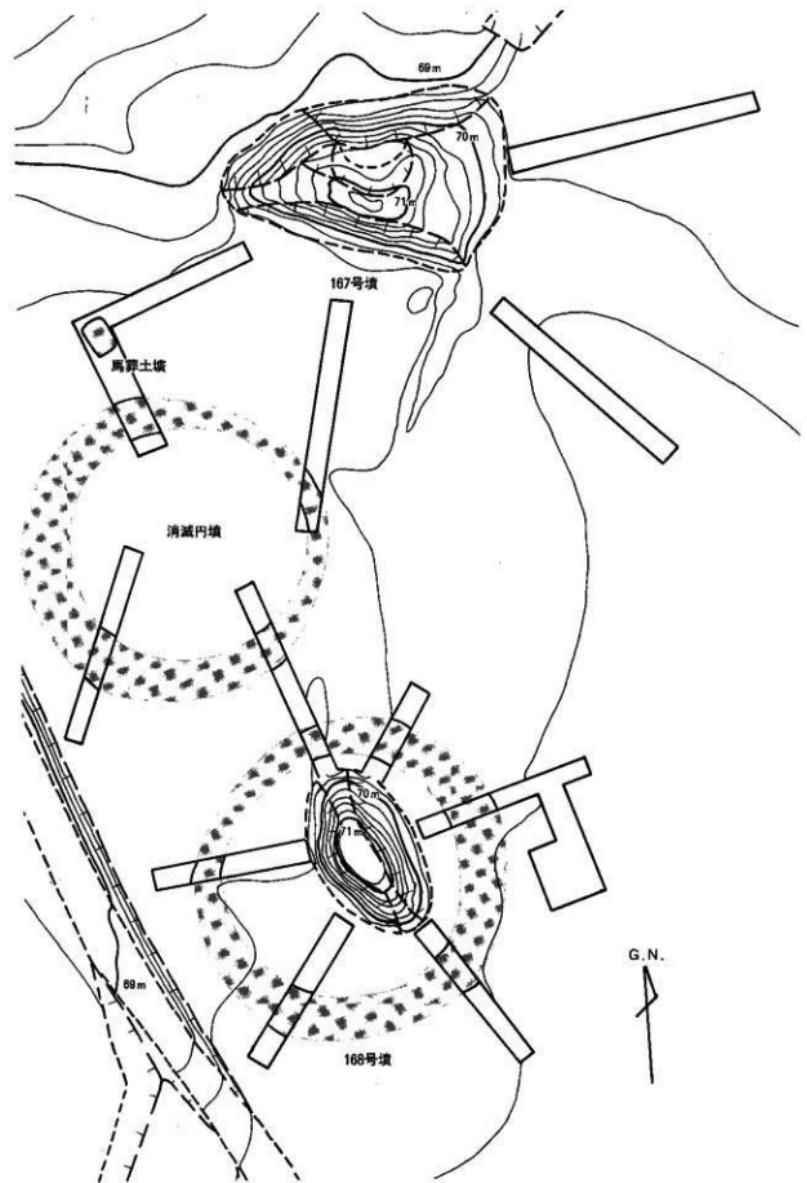
註

1)日本書紀によると、推古天皇がこの詩を詠んだのは推古天皇の20(612)年のことである。

参考文献

藤本貴仁1998「宮崎平野部の群集墳」「宮崎考古」第16号

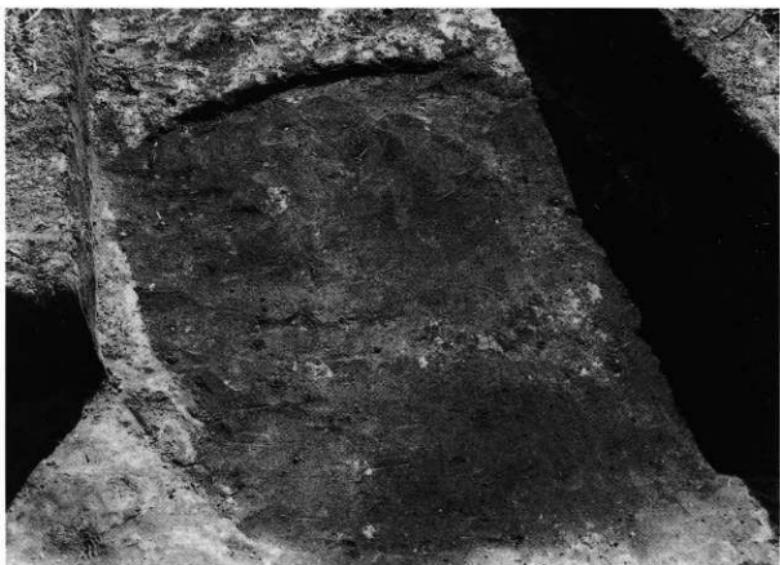
藤本貴仁2000「日向の横穴墓」「九州の横穴墓と地下式横穴墓」第4回九州前方後円墳研究会大会資料集



第3図 西都原東地区トレンチ配置図 (S = 1 : 250)



西都原168号墳



馬葬土塚検出状況



馬葬土壠完成状況



出土状況



消滅円墳 周溝内須恵器出土状況①



消滅円墳 周溝内須恵器出土状況②

第IV章 西都原寺原第2支群の調査

立地

寺原第2支群は、西都原台地上の西側の約60mの丘陵上、西都市大字三宅字寺原に位置する。

支群内には、県道により分断された前方後円墳（前方部が187号墳、後円部が190号墳として指定を受けている。）が存在するが、その他は全て円墳である。前方後円墳は、柄鏡類型（柳沢1995）であり4世紀の後半から末にかけての築造であると思われる。

支群の形成は、前方後円墳（187号墳、190号墳）の築造を契機として行われたことが予想され、その後、まず首長墳として大型の円墳（191号墳、194号墳、196号墳、197号墳）が造られ、古墳時代後期になり小円墳群が築造されたと思われる。

調査の概要

平成14年9月から、芝張り工事に伴い周溝の確認調査を行った。今回の調査は、主に各古墳の周溝の確認を主眼とし、墳丘周辺に1m幅のトレンチを19本設けて行った。

191号墳

墳丘周辺に幅1mのトレンチを3本設定し調査を行った。

調査の結果、葺石、根石列および周溝が確認できた。

192号墳

墳丘周辺に幅1mのトレンチを3本設定し調査を行った。

調査の結果、周溝が確認できた。

葺石等の外表施設は確認されていない。

193号墳

墳丘周辺に幅1mのトレンチを1本設定し調査を行った。

調査の結果、周溝が確認された。

194号墳

墳丘周辺に幅1mのトレンチを2本設定し調査を行った。

調査の結果、葺石、根石列、幅2mの周溝が確認された。

196号墳

墳丘からその周辺にかけて幅1mのトレンチを2本、直行方向に設定し調査を行った。

調査の結果、葺石、根石列、周溝が確認された。

墳丘は二段築成で周溝内からは、5世紀代のものと思われる高坏の脚部が出土している。

197号墳

墳丘からその周辺にかけて幅mのトレンチを4本設定し調査を行った。

調査の結果、葺石、根石列、周溝が確認された。

墳形は二段築成の円墳である。

272号墳

墳丘周辺に、幅1mのトレンチを4本設定し調査を行った。

調査の結果、墳丘周囲に周溝が巡ることが確認された。

墳形は円墳であり、葺石、埴輪などの外表施設は確認されていない。

築造時期

現在、遺物、図面ともに整理途中であり細かな検討はこれからとなるが、今回の調査で得られたデータをもとに大まかな築造時期を推定したい。

今回の調査で得られたデータとしては、

- ①191、194、196、197号墳については葺石が施されている。
- ②196号墳の周溝から5世紀代の土師器が出土している。
- ③192、193、272号は葺石をもっていない。

などである。

現在、宮崎県下で6世紀代に築造されたといわれている古墳で葺石の存在が確実なものは、新富町鎧古墳と西都市船塚古墳（西都原265号墳）のみである。しかし、両墳とも出土遺物や墳形などから、築造時期がさかのぼる可能性がある。

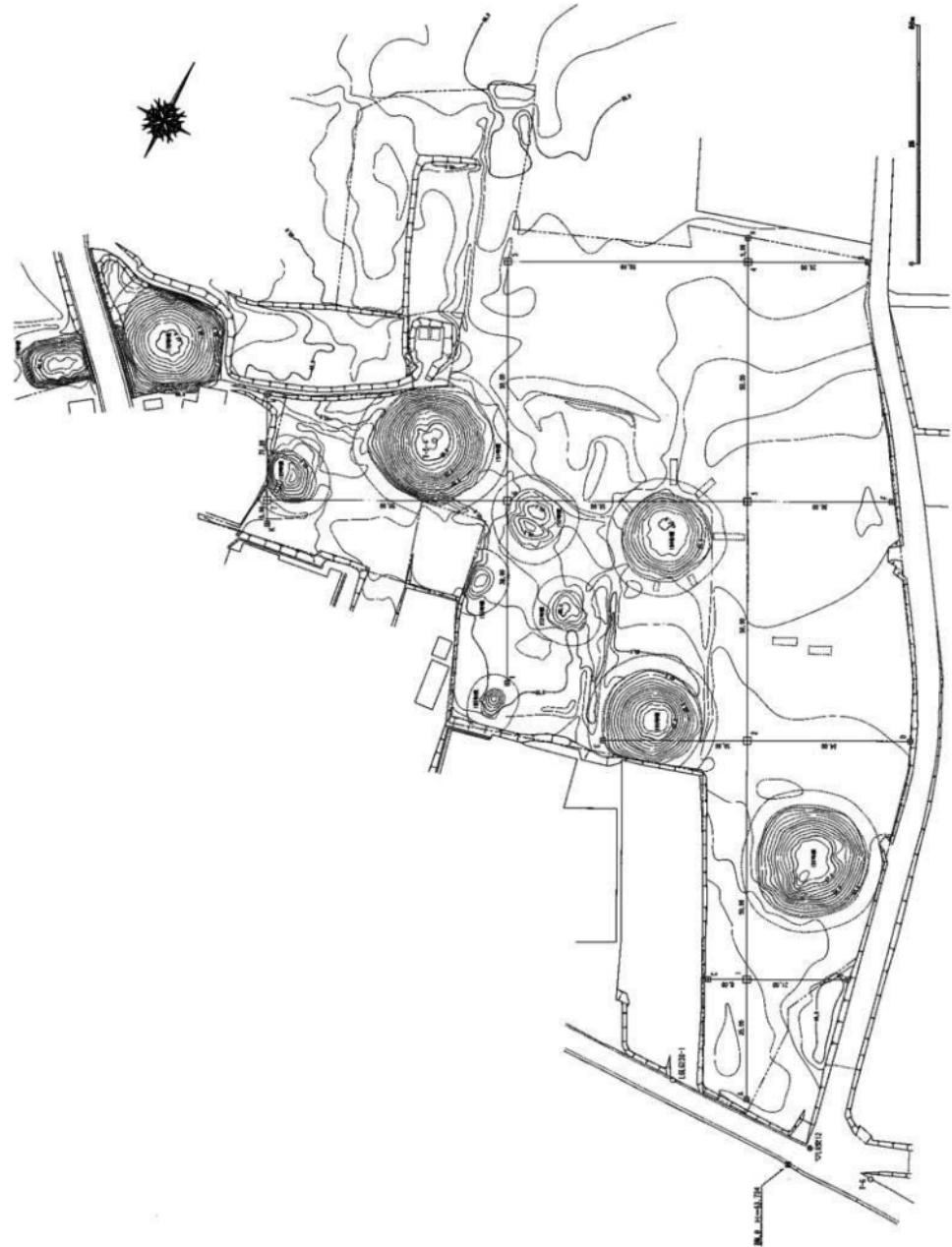
よって、葺石が施されている古墳は、5世紀以前にさかのぼる可能性が非常に高いと思われる。

葺石をもっていない小円墳については、藤本（1998）の指摘にあるように後期になって形成されていく群集墳ととらえられるかもしれない。

参考文献

藤本貴仁1998「宮崎平野部の群集墳」『宮崎考古』第16号

柳沢一男1995「日向の古墳時代前期首長墓系譜とその消長」『宮崎県史研究』第9号



第4図 寺原第2支群 (1 : 1,000)

第V章 西都原111号墳の調査

立地

西都原111号墳は、西都原台地上の北側の丘陵上、西都市大字三宅字東立野に位置する。

墳丘下には、昭和30年に陥没して発見された、県下最大の地下式横穴墓である西都原4号地下式横穴墓が造られている。

地下式横穴墓内からは、鉄製武器・武具類、玉類、鏡などが出土している。

調査の概要

平成14年12月から、國路工事および西都原4号地下式横穴墓の見学施設建設に伴い周溝の確認調査を行った。今回の調査は、主に古墳の規模と周溝の確認を主眼とし、墳丘周辺に1m幅のトレンチを4本設けて行った。

墳丘

調査の結果、111号墳は、2段以上の段築をもつ円墳であると確認できた。

最下段の削平が激しく、特に東側については最上段の根石列まで削平を受けていた。

外堤については、盛土中から陶磁器やビニール製品の一部などが出土しており、後世のものであることが確認できた。

現状の墳丘および外堤については、風土記の丘整備時に復元されたものと思われる。

出土遺物

今回の調査では、確実に古墳に伴う遺物は確認できていない。墳丘埋土中から、須恵器の破片が数点出土しているに止まる。

築造時期

地下式横穴墓陥没時の調査では、5世紀後半代の年代が与えられているが、今回の調査で地下式横穴墓の堅坑は、111号墳の周溝が多少埋没した時期に掘られていることがわかった。築造時期は若干さかのぼると思われる。

小結

今回の調査では、墳丘のおよその径、周溝の規模が確認された。また、外堤と墳丘1段目の大部分については、後世の復旧であることが確認できた。

墓壙については、明確な検出ができなかったが、次年度以降の課題としておきたい。



西都原111号墳 蒜石検出状況



西都原4号地下式横穴墓 竪碑

第VI章 保存整備

1. 100号墳整備工事

100号墳は、平成11年度から12年度にかけて発掘調査を行った。調査の結果、4世紀初めの築造であることが確認された。

葺石の残存状況が良好なので保存整備指導委員会の意見により葺石を見せる整備とすることになったが、文化庁の指導もあり、葺石の欠損部分についての修復は行わず、発掘調査時のままの姿で一般公開することとなった。

今年度は昨年度に引き続き保存処理の一部を行った。基質強化のための薬剤を散布し、葺石の間に目地土として凝土を詰める工事を実施した。

墳丘の周辺に進入防止を主目的とする植栽を施し、見学のための園路と説明板を別工事で設置した。

2. 西都原古墳群遺構保存覆屋内部環境改善工事

昨年度に引き続き、結露防止及び防カビを主目的とした内部環境改善工事を実施した。

工事の概要は、建物の壁や天井の断熱性が不足しているため、断熱性を向上させる工事と換気設備工事である。断熱性向上工事は、壁の外側に外壁に張るタイプの断熱材をはり、天井には野地板に発砲ウレタンを吹き付けてその上にさらに野地板を張るものである。換気設備工事は、内部にダクトを通して、天井近くに緩やかな空気の流れを作るものである。ファンは湿度センサー等により制御される。

今年度は、大空間の天井部の断熱工事と窓部の断熱工事及び換気設備工事を実施した。換気設備については、小空間の稼働状況を確認して大空間の工事内容に反映させた。

3. 4号地下式横穴墓保存見学施設建設工事

111号墳の地下に位置する。昭和31年に羨道部が崩壊し不時発見された。このとき、発掘調査が実施された。

昭和40年代に堅坑に入るための梯子とその上に蓋が設置された。その後、玄室の天井部まで亀裂があり、一部崩落が起きるなど崩壊の危険があるため、保存施設を建設することとした。

概要としては、まず、天井部を支えるためにサポートを設置した。羨道部の崩壊している部分には、保存施設からトラスを延ばし穴を塞いだ。堅坑は、密閉しコンクリートと鉄骨の上に断熱材を吹き付け、表面に樹脂と土を混ぜた凝土を施し、結露防止と化粧を兼ねた。

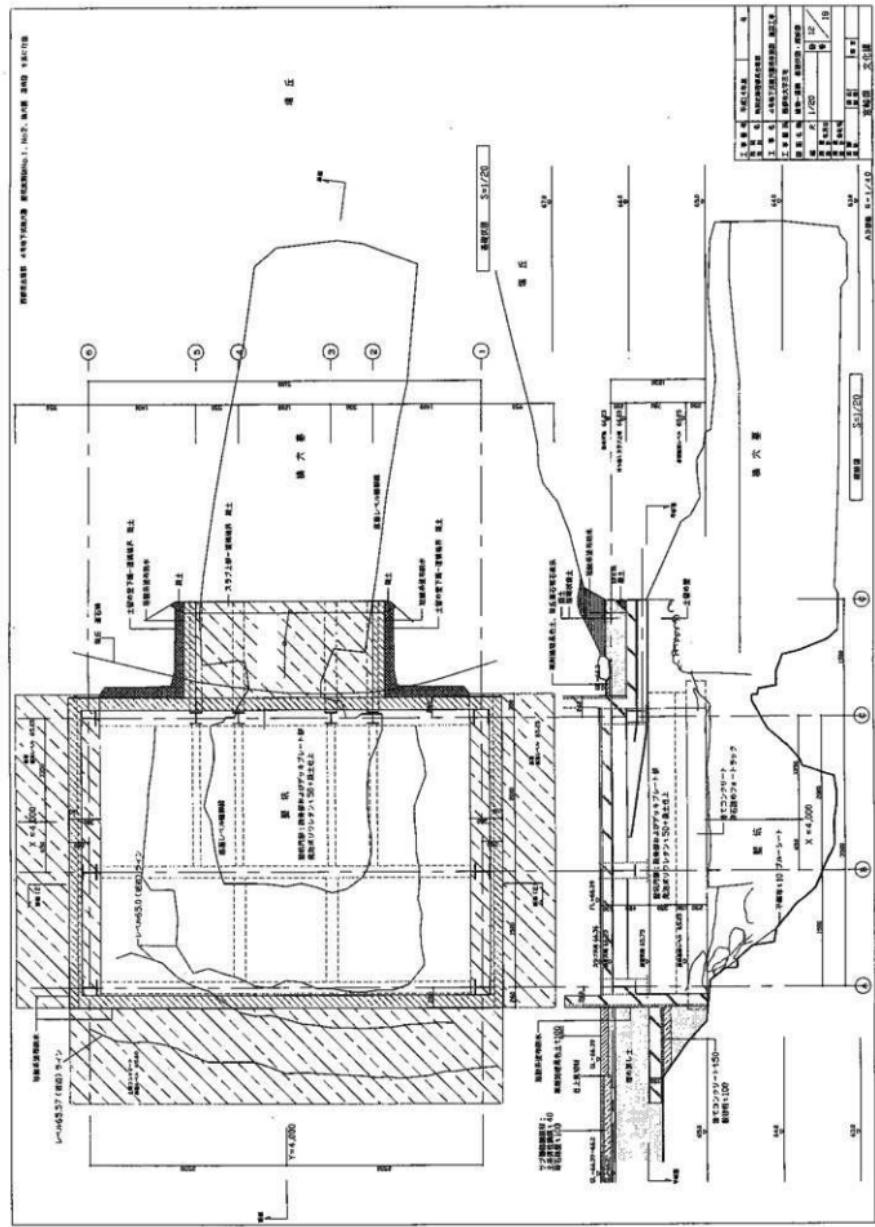
内部は、カメラにより見学することができる。照明は、光ファイバーを用いた。

4. 中央監視設備工事

平成7年度からの事業により、西都原古墳群内に保存見学施設が4箇所設置された。これらの施設は、お互いに離れており、遺構等の監視が困難であった。そこで、監視設備を設置し、酒元ノ上横穴墓群に建設した遺構保存覆屋内で監視できるようにした。

設置にあたって、広大な古墳群内を掘削することは望ましくないので、無線LANを用いた。

4号地下式機穴基盤保存見学施設平面図及び断面図



報告書抄録

ふりがな	とくべつしせきさいとばるこふんぐん はくつちょうさ・ほぞんせいびがいようほうこくしょ											
書名	特別史跡西都原古墳群											
副書名	発掘調査・保存整備概要報告書											
卷次	VIII											
シリーズ名												
シリーズ番号												
編集者名	重山郁子・和田理啓											
発行機関	宮崎県教育委員会											
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目9番10号											
発行年月日	平成15年3月31日											
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北	韓	東	経	調査期間					
西都原古墳群	西都市大字三宅	45208					2001.4 ~ 2003.3					
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項						
古墳	古墳	169号墳	葺石	円筒埴輪列	円筒埴輪							
		西都原東地区	周溝・馬葬区	須恵器・轡								
		寺原第2支群	土壇									
		111号墳	周溝・掘立柱建物									
			葺石・地下式横穴墓									

平成15年3月

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書（Ⅳ）

編集 宮崎県教育文化課

発行 宮崎県教育委員会